

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191400332		
法人名	株式会社 秀		
事業所名	グループホームとみおか (2F いこい)		
所在地	北海道函館市富岡町1丁目51番20号		
自己評価作成日	平成28年2月1日	評価結果市町村受理日	平成28年2月26日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=0191400332-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成28年2月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・設立当初より続けている「一日日記」はスタッフが毎日の様子を1ヵ月綴った文面を御家族もとても楽しみにされ読まれております。
 ・外出行事のお花見会では、毎年ボランティアと御家族の参加で五稜郭タワーで昼食を一緒に摂られ公園のさくらの観賞を楽しまれています。
 ・月2度の訪問診療や毎週1度の訪問看護による医療連携があり、訪問看護ステーションについては24時間体制で対応しています。また、病状により臨時住診もあり早期発見早期治療でご家族にも安心して戴いております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

国道より少し入った閑静な住宅街にある鉄骨造り3階建ての2・3階を利用した2ユニット(定員:18名)のグループホームです。
 毎月、日々の暮らしの特微的な一日を「一日一日記」で日常の生活の様子や出来事など情報提供したり、自然災害時(津波・風水害等)の避難方法や連絡手段など家族と話し合う機会を設けるなど家族との連携・協力体制構築に取り組んでいる。
 また、中学校の吹奏楽部の慰問や地域ボランティア、実習生の受け入れ等で事業所の持つ機能を地域に還元していると共に散歩や買い物、外気浴や桜見物などのドライブで戸外に出かけられるように支援している。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を作り上げ、玄関壁や廊下、各ユニットリビングの壁に掲示し、毎日の申し送りや毎月のユニット会議等の際に話し合い日々の業務を通じて理念を共有しその実践に繋げている。	事業所独自の理念を全体会議やユニット毎の会議等で話し合い、理念を共有して実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣中学校吹奏楽部の訪問、ボランティアの受入、とみおか夏祭り開催と地域との交流関係を深めています。	中学校の吹奏楽部の慰問や地域ボランティア、実習生の受け入れ等で事業所の持つ機能を地域に還元している。また、夏祭りを開催して地元の人々との交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームの見学はいつでも自由に行っており、児童館の子供達との交流や近隣小学校との交流により子供達の訪問が増え家族へも理解を深めてもらう話しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そのでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、ご家族との具体的な意見交換を通し、ホームの運営内容にご理解をいただき、よりよいサービス向上に繋げている。	定期的に運営推進会議を開催して、日常生活の様子や事業所の取り組み状況など具体的内容について話し合い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から担当者と連絡を取り合い運営推進会議等を通じて情報交換を行い、ケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら協力関係を築いている。	市担当者とは、日常業務や相談・報告などで情報交換を行い、協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎日の申し送り、毎月のユニット会議等において、身体拘束や高齢者虐待防止に向けた方策について機会ある毎に話し合いを行っている	申し送りやユニット会議で指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を話し合い、正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃の職員の言動・行動に注視し、ケア方法についての問題点など職員との話し合いの場を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	近年の介護を取り巻く現状に鑑み、成年後見人制度の重要性を再認識していただくためにも、運営推進会議を通し、ご家族に対する勉強会を開催する予定。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、契約書・重要事項説明書の内容をご家族様に説明し理解・納得を得て捺印していただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族来訪時に意見や苦情、要望等を直接言ってもらえるよう働きかけ、また、玄関先に意見箱を設けたり運営推進会議では、区長、包括支援センター等の意見を聞き入れ改善に向け取り組んでいる。	家族の来訪が多く、来訪時に要望や意向を話し合う機会を設け、そこでの意見や要望等を運営に反映できるよう努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全体会議、ユニット会議と日常業務を通じて意見や要望、提案を聴く機会を設け運営に反映出来る様にしている。	全体会議やユニット会議で職員の意見や提案を聞く機会を設け、そこでの意見や提案を運営に反映できるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年末の賞与、新年度に昇給等の見直し、労働時間の要望等、また年度内においても資格習得者については、給料段階を設定している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会の案内の掲示により、職員周知参加出来る機会を確保し、欠席職員には研修内容をいつでも閲覧できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	職員が積極的に参加出来る様ソフトの調整や、また、参加時は積極的に同業者との交流や情報交換を行い、サービスの向上に取り組んでいる。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人・御家族と面談し心配事、不安に思っている事等をアセスメントし、入居時には本人が安心した生活が出来る様関係作りに努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人、ご家族との面談時のアセスメントをしっかり行い要望を聞き入れながら安心して暮らして頂ける様、敏速な対応で信頼関係作りにも努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当ケアマネ、医療機関、関係者等から情報収集し本人、ご家族が必要としている支援を見極め安心して生活出来る様対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみ、食器拭きやチラシ折り等を職員、他入居者様と一緒にやる事で、コミュニケーションを図りより良い関係作りを築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族との連絡を常に密にし共に同じ方向性を持ち、ご家族関係を大切にしながら支援している。		
20	8	○馴染みの人や場所との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしていた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人がこれまで大切にしていた友人、知人達又はペット等も自由に訪問出来る様支援している。	家族と一緒にの外出支援や紅葉見物、地域の行事参加等で馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎月の行事や、ドライブ等また、毎日のアクティビティ等で入居者様同士が関わり合えるよう支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、ご家族の対応が困難な時は相談や支援を行っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様やご家族の思いや暮らし方の意向の把握に努めると共に、毎日の申し送りの中から本人の思いを把握し職員間で共有し、常にその人らしく生活が送れるよう支援している。	一人ひとりの希望や意向など話し合い、本人本位に支援できるように検討している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前にご本人、ご家族からの聞き取りにより、今までの暮らし、環境、サービス利用の経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送り、コミュニケーションを通じて一日の過ごし方、心身状態等を把握し職員間で情報を共有しその日、その人が望む生活が出来る様努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族様の意向も含め、毎日の申し送りを通して、ご本人がより良い生活を送れるよう介護計画を作成し支援している。	本人、家族の意向や要望、カンファレンスやモニタリングを通じて職員の意見やアイデアを反映して、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録を作成記録し、毎日の申し送りや連絡ノートを活用し情報の共有をし、ユニット会議時に個別のカンファレンスを行い介護計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々々の必要性に対応出来る様、ホーム丸となり、情報を共有し支援やサービスに対して柔軟に対応出来る様努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本年度については地域資源の活用には力を入れることができなかった。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な医師の往診や訪問看護の利用で適切な医療を受けられるよう支援している。が、他の医療機関受診の希望があれば適切に医療が受けられる様支援している。	往診や訪問看護の利用、通院への支援等で適切な医療を受けられるようにしている。また、本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入浴やケアの際に気付いた小さな変化もスタッフ内で共有し2週に1度の往診、週1度の訪問看護で相談し指示を仰いでいる。また食事量の変化や訴えなどに注意し、変化を見逃さない様徹底している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は病院関係者に対して情報提供をし、治療に専念できるよう支援している。また、ご家族と密に連絡をとり、退院に向けご本人の体調や、病状に合わせた支援が出来る様、病院関係者との関係作りに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	希望意向に添えるよう、早い段階からご本人、ご家族、主治医、事業所、病院関係者と話し合いを行い、事業所ですることを説明、理解して戴き方向性を決め支援に取り組んでいる。	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ができることを十分に説明しながら職員間で方針を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故に合わせた対応マニュアルをスタッフ全員が周知していると共に医療連携看護師、主治医に連絡を取り冷静に指示が聞き分けられるよう身に付けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防士立会の訓練では、日頃の疑問や緊急時の対応など、ホームの構造や入居者様の状況に対応する疑問点についても解消し全スタッフが不安なく対応できるよう強化を図っている。	年2回、消防署の協力を得て昼夜間を想定した避難訓練を実施している。また、津波や風水害等の自然災害時の対応について町内会役員や児童館館長、家族を交えて協力体制を話し合っている。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフは言葉遣いや動作に配慮し、優しさが伝わるように対応している。親しみを込めつつも、誤解や疎外感を感じさせないように十分に気を付ける旨職員会議の席上でも確認している。	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねる言葉かけや対応がないように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けの際には選択的な質問をし、御本人の意向を汲み上げるように心がけ、利用者間での軋轢が生じないよう配慮もしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	御本人の状況に対応し、グループでカルタ取りやトランプを行う日もあれば、一人で塗り絵を完成させ壁に飾ることもある。その日の気分や状況に可能な限り合わせ支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の寝ぐせ直しも希望者には手鏡、ブラシ、スプレーを手渡し、御自分で行って頂くこともある。カラフルな服を着用していると入居者様同士で評価し合っている様子も見受けられる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みや季節の旬の食材を献立に取り入れ、行事食にも工夫を凝らしている。咀嚼、嚥下機能に応じて、食事形態も常食、粥、刻み、ミキサー、トロミ等の形態で提供している。職員と共に食卓を囲むことは入居者の楽しみとなっている。	一人ひとりの力を活かしながら、嗜好や体調に合わせ食事の準備や後片付けなど支援をしている。また、季節ごとの旬な食材を採り入れるよう献立に工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量が少ない方は間食も含めて小まめに摂取し偏りの出ないように工夫している。水分の少ない方も糖分などに配慮しつつ熱いお茶、水、ジュース等好みに応じて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	舌ブラシを使用し、舌苔状態を観察しケアを行っている。また、歯ブラシが使用できない方は、歯磨きテッシュを使用し個々の状況に合わせた口腔ケアを支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握して時間誘導したり、発するサインを見逃さずに誘導して、可能な限りトイレでの排泄を支援している。	一人ひとりの力や排泄パターンを把握して、トイレでの排泄や自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動不足がちな方には、声掛けをし一緒に体操を行ったり、廊下の往復などさりげなく誘導し楽しみながら身体を動かしていただく様工夫している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	週2回の入浴を予定しているが、身体汚染やタイミングなどに応じて支援している。浴室は常に清潔を保ち、ゆったり入浴が出来るよう言葉がけにも配慮している。入浴時の懐メロ歌を楽しみにしている方もいらっしゃる様支援しています。	安全に配慮しながら週2回を目安に一人ひとりの希望やタイミング、生活習慣に応じて柔軟な入浴支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	発汗の多い方はタオルを使用し小まめに交換したり、居室の加湿・温度に気を付けている。日中の臥床時間は限定し、夜間ぐっすり入眠出来るよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	嚥下の状態により、トロミを付けるなどの支援をしている。服薬の調整指示が医師からあった場合には、その後の状況観察をしっかり伝え適切な投薬がされるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	特に洋裁や編み物をされたい方は作業中に思いついた話や過去の作品について語られる事も有る。また、ほつれを直していただいた時など、仕事に感謝される事が張り合いに繋がっている方もおられる。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に合わせて花見、紅葉ドライブを実施。近隣の児童館行事への参加や見学など、入居者様の希望や身体状況に応じて外出支援をしている。家族との外出や日光浴など出来るだけ戸外へ出かけられるよう工夫している。	散歩や外気浴、買い物など一人ひとりのその日の希望に沿って戸外に出かけられるよう支援している。また、花見や夏祭り見物、ドライブなどに出かける支援に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が出来る入居様は殆んどおらず、ホームとご家族で管理し買い物や支払いが、希望される入居者様にはスタッフ同行で一緒に近隣の店へ買い物の支援を行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様や大切な方からの電話連絡があった時は、取次を行っています。また、スタッフが代理で電話を掛け御本人に受話器を渡し対話が出来れば支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁には季節感のある作品や飾りを掲示し、入居者様は思い出しの写真や作品に囲まれ、廊下で立ち止まって見入っている事もしばしばである。リビングでは換気と採光、音量に配慮し快適に過ごせる様工夫している。	共用空間には、行事参加の写真の掲示や季節ごとの飾り付けなど季節感や生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。また、利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	よくおしゃべりされる方はTVから離れたソファ席で、TVが好きな方はテレビに近いソファで、独りを好む方はテーブル席を開放するなど個々の居場所を作る工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御本人にとって使い慣れた家具や身の周りの物を持参していただき、家族の写真や思い出の品などを自由に持ち込み安心して過ごせる居室作りを工夫している。動物やお花が好きな方には趣味に合わせたカレンダーを用意する事もある。	居室には、使い慣れた家具や寝具等を持ち込まれ本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所が解らなくなった時には、標識を確認して導き誘導する。混乱の原因を作らないよう、いつも同じトイレへ誘導し場所を把握して戴ける様支援している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191400332		
法人名	株式会社 秀		
事業所名	グループホームとみおか (3F いずみ)		
所在地	北海道函館市富岡町1丁目51番20号		
自己評価作成日	平成28年2月1日	評価結果市町村受理日	平成28年2月26日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=0191400332-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成28年2月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・設立当初より続けている「一行日記」はスタッフが毎日の様子を1ヵ月綴った文面を御家族もとても楽しみにされ読まれております。
 ・外出行事のお花見会では、毎年ボランティアと御家族の参加で五稜郭タワーで昼食を一緒に摂られ公園のさくらの観賞を楽しまれています。
 ・月2度の訪問診療や毎週1度の訪問看護による医療連携があり、訪問看護ステーションについては24時間体制で対応しています。また、病状により臨時住診もあり早期発見早期治療でご家族にも安心して戴いております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を作り上げ、玄関壁や廊下、各ユニットリビングの壁に掲示し、毎日の申し送りや毎月のユニット会議等の際に話し合い日々の業務を通じて理念を共有しその実践に繋げている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣中学校吹奏楽部の訪問、ボランティアの受入、とみおか夏祭り開催と地域との交流関係を深めています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームの見学はいつでも自由に行っており、児童館の子供達との交流や近隣小学校との交流により子供達の訪問が増え家族へも理解を深めてもらう話しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、ご家族との具体的意見交換を通し、ホームの運営内容にご理解をいただき、よりよいサービス向上に繋げている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃から担当者と連絡を取り合い運営推進会議等を通じて情報交換を行い、ケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら協力関係を築いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎日の申し送り、毎月のユニット会議等において、身体拘束や高齢者虐待防止に向けた方策について機会ある毎に話し合いを行っている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃の職員の言動・行動に注視し、ケア方法についての問題点など職員との話し合いの場を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	近年の介護を取り巻く現状に鑑み、成年後見人制度の重要性を再認識していただくためにも、運営推進会議を通し、ご家族に対する勉強会を開催する予定。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、契約書・重要事項説明書の内容をご家族様に説明し理解・納得を得て捺印していただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族来訪時に意見や苦情、要望等を直接言ってもらえるよう働きかけ、また、玄関先に意見箱を設けたり運営推進会議では、区長、包括支援センター等の意見を聞き入れ改善に向け取り組んでいる。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全体会議、ユニット会議と日常業務を通じて意見や要望、提案を聴く機会を設け運営に反映出来る様にしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年末の賞与、新年度に昇給等の見直し、労働時間の要望等、また年度内においても資格習得者については、給料段階を設定している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会の案内の掲示により、職員周知し参加出来る機会を確保し、欠席職員には研修内容をいつでも閲覧できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	職員が積極的に参加出来る様ソフトの調整や、また、参加時は積極的に同業者との交流や情報交換を行い、サービスの向上に取り組んでいる。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人・御家族と面談し心配事、不安に思っている事等をアセスメントし、入居時には本人が安心した生活が出来る様関係作りに努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人、ご家族との面談時のアセスメントをしっかり行い要望を聞き入れながら安心して暮らして頂ける様、敏速な対応で信頼関係作りにも努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当ケアマネ、医療機関、関係者等から情報収集し本人、ご家族が必要としている支援を見極め安心して生活出来る様対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみ、食器拭きやチラシ折り等を職員、他入居者様と一緒にやる事で、コミュニケーションを図りより良い関係作りを築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族との連絡を常に密にし共に同じ方向性を持ち、ご家族関係を大切にしながら支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人がこれまで大切にしていた友人、知人達又はペット等も自由に訪問出来る様支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎月の行事や、ドライブ等また、毎日のアクティビティ等で入居者様同士が関わり合えるよう支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、ご家族の対応が困難な時は相談や支援を行っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様やご家族の思いや暮らし方の意向の把握に努めると共に、毎日の申し送りの中から本人の思いを把握し職員間で共有し、常にその人らしく生活が送れるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前にご本人、ご家族からの聞き取りにより、今までの暮らし、環境、サービス利用の経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送り、コミュニケーションを通じて一日の過ごし方、心身状態等を把握し職員間で情報を共有しその日、その人が望む生活が出来る様努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族様の意向も含め、毎日の申し送りを通して、ご本人がより良い生活を送れるよう介護計画を作成し支援している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録を作成記録し、毎日の申し送りや連絡ノートを活用し情報の共有をし、ユニット会議時に個別のカンファレンスを行い介護計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々々の必要性に対応出来る様、ホーム丸となり、情報を共有し支援やサービスに対して柔軟に対応出来る様努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本年度については地域資源の活用には力を入れることができなかった。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な医師の往診や訪問看護の利用で適切な医療を受けられるよう支援している。が、他の医療機関受診の希望があれば適切に医療が受けれる様支援している。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入浴やケアの際に気付いた小さな変化もスタッフ内で共有し2週に1度の往診、週1度の訪問看護で相談し指示を仰いでいる。また食事量の変化や訴えなどに注意し、変化を見逃さない様徹底している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は病院関係者に対して情報提供をし、治療に専念できるよう支援している。また、ご家族と密に連絡をとり、退院に向けご本人の体調や、病状に合わせた支援が出来る様、病院関係者との関係作りに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	希望意向に添えるよう、早い段階からご本人、ご家族、主治医、事業所、病院関係者と話し合いを行い、事業所で出来ることを説明、理解して戴き方向性を決め支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故に合わせた対応マニュアルをスタッフ全員が周知していると共に医療連携看護師、主治医に連絡を取り冷静に指示が聞き分けられるよう身に付けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防士立会の訓練では、日頃の疑問や緊急時の対応など、ホームの構造や入居者様の状況に対応する疑問点についても解消し全スタッフが不安なく対応できるよう強化を図っている。		

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフは言葉遣いや動作に配慮し、優しさが伝わるように対応している。親しみを込めつつも、誤解や疎外感を感じさせないように十分に気を付ける旨職員会議の席上でも確認している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けの際には選択的な質問をし、御本人の意向を汲み上げるように心がけ、利用者間での軋轢が生じないよう配慮もしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	御本人の状況に対応し、グループでカルタ取りやトランプを行う日もあれば、一人で塗り絵を完成させ壁に飾ることもある。その日の気分や状況に可能な限り合わせ支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の寝ぐせ直しも希望者には手鏡、ブラシ、スプレーを手渡し、御自分で行って頂くこともある。カラフルな服を着用していると入居者様同士で評価し合っている様子も見受けられる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みや季節の旬の食材を献立に取り入れ、行事食にも工夫を凝らしている。咀嚼、嚥下機能に応じて、食事形態も常食、粥、刻み、ミキサー、トロミ等の形態で提供している。職員と共に食卓を囲むことは入居者の楽しみとなっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量が少ない方は間食も含めて小まめに摂取し偏りの出ないように工夫している。水分の少ない方も糖分などに配慮しつつ熱いお茶、水、ジュース等好みに応じて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	舌ブラシを使用し、舌苔状態を観察しケアを行っている。また、歯ブラシが使用できない方は、歯磨きテッシュを使用し個々の状況に合わせた口腔ケアを支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握して時間誘導したり、発するサインを見逃さずに誘導して、可能な限りトイレでの排泄を支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動不足がちな方には、声掛けをし一緒に体操を行ったり、廊下の往復などさりげなく誘導し楽しみながら身体を動かしていただく様工夫している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	週2回の入浴を予定しているが、身体汚染やタイミングなどに応じて支援している。浴室は常に清潔を保ち、ゆったり入浴が出来るよう言葉がけにも配慮している。入浴時の懐メロ歌を楽しみにしている方もいらっしゃる様支援しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	発汗の多い方はタオルを使用し小まめに交換したり、居室の加湿・温度に気を付けている。日中の臥床時間は限定し、夜間ぐっすり入眠出来るよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	嚥下の状態により、トロミを付けるなどの支援をしている。服薬の調整指示が医師からあった場合には、その後の状況観察をしっかり伝え適切な投薬がされるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	特に洋裁や編み物をされたい方は作業中に思いついた話や過去の作品について語られる事も有る。また、ほつれを直していただいた時など、仕事に感謝される事が張り合いに繋がっている方もおられる。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に合わせて花見、紅葉ドライブを実施。近隣の児童館行事への参加や見学など、入居者様の希望や身体状況に応じて外出支援をしている。家族との外出や日光浴など出来るだけ戸外へ出かけられるよう工夫している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が出来る入居様は殆んどおらず、ホームとご家族で管理し買い物はされているが、希望される入居者様にはスタッフ同行で一緒に近隣の店へ買い物の支援を行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様や大切な方からの電話連絡があった時は、取次を行っています。また、スタッフが代理で電話を掛け御本人に受話器を渡し対話が出来の様支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁には季節感のある作品や飾りを掲示し、入居者様は思い出の写真や作品に囲まれ、廊下で立ち止まって見入っている事もしばしばである。リビングでは換気と採光、音量に配慮し快適に過せる様工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	よくおしゃべりされる方はTVから離れたソファ席で、TVが好きな方はテレビに近いソファで、独りを好む方はテーブル席を開放するなど個々の居場所を作る工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御本人にとって使い慣れた家具や身の周りの物を持参していただき、家族の写真や思い出の品などを自由に持ち込み安心して過せる居室作りを工夫している。動物やお花が好きな方には趣味に合わせたカレンダーを用意する事もある。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所が解らなくなった時には、標識を確認して戴き誘導する。混乱の原因を作らないよう、いつも同じトイレへ誘導し場所を把握して戴ける様支援している。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム とみおか

作成日: 平成 28年 2月 25日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組内容	目標達成に要する期間
1	7、8	当施設内においては、虐待の事実こそ無いが、個々の人格を軽視するような、言動がゼロではない事実を重く受け止め絶無に努める。	利用者様のこれまでの人生を最大限尊重し、やさしく、穏やかに過ごしていただける空間を作りあげる。	運営推進会議及びユニット会議の席上職員、ご家族に対し、認知症の正しい知識を再確認していただく。職員の質の向上にむけた個別指導。	12ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入してください。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加してください。